

第6回住民会議 議事要旨

平成20年(2008年)10月29日

滋賀県流域治水政策室

滋賀県流域治水検討委員会 第6回住民会議

議 事 要 旨

■日 時：平成20年9月11日(木) 13:32~16:58

■会 場：「米原公民館」2階 大会議室

■出席者：33名（傍聴者含む）

委 員 石津文雄、大橋正光、北井香、柴田善秀、杉本良作、中村誠伺、齒黒恵子、
（敬称略）松尾則長

アドバイザー 多々納裕一（京都大学防災研究所教授）

オブザーバー 市町担当者、県関係部局担当者

事 務 局 県土木交通部技監、流域治水政策室

■議 事

1. 開 会
2. 議 事
 - ・事務局説明
 - ・審議
 - (1) 自助・共助に関する提言案
（中間とりまとめ）について。
 - (2) 県民が公助に期待する事柄について
3. 一般傍聴者からのご意見
4. 閉 会



■議事要旨

1. 開 会

事務局より資料確認等事務連絡の後、大橋座長から開会宣言が行われました。

2. 議 事

- ・ 事務局説明
事務局より、今回の住民会議の内容について説明がありました。
- ・ 審議
- (1) 自助・共助に関する提言案（中間とりまとめ）について
宿題であった自助・共助に関する提言のキャッチコピーや自助・共助に関する提言案の樹形図の内容についての議論が行われました。

【柴田委員】

- ・ 樹形図は、前回、分類している場所が違ったり、具体的にわかりにくいという指摘があったので、分類し直している。
- ・ 構成としては、それぞれに小見出しをつくり、小見出しを実現するための施策として具体的にどうしたらよいかを書いている。

【松尾委員】

- ・ キャッチフレーズには、メッセージ性が必要だ。
- ・ 樹形図については、文章はもっとやわらかい表現でどうか。

【大橋委員】

- ・ 「地域は地域で守る。」か、「～大作戦。」になるのか。どちらかになるのではないかと思う。
- ・ できるだけ短い言葉である必要がある。「文化」というキーワードが必要かもしれない。

【中村委員】

- ・ 現代の災害の状況から「気候変動」や「地球温暖化」を入れておきたい。
- ・ 「地域防災力」自分で守る、協働して避難する、の両方の意味合いがある。

【多々納アドバイザー】

- ・ キャッチコピーを考えることはつまり、樹形図の一番上に何を書くか？樹形図が一体何なのか？という話になる。
- ・ 県民からの宣言であるという形にすれば、より良い。

【大橋委員】

- ・ たしかに、「水害は地域を守る。」であると、どこでも同じになる。「近江の」という単語を入れるなど、地域の個性、滋賀県の文化を入れるということで、本日は、まとめたい。

【松尾委員】

- ・ 「若い人や新住民へ」というフレーズを「全ての人」にしてはどうか。若い人や新住民ばかりが関心が無いのではない。

【中村委員】

- ・ 「若い人」、「新住民」は、問題であることは間違いないのであるから、表現を和らげて課題として残しておくべきであると考え



【多々納アドバイザー】

- ・ 「新規に地域に入ってくる人に水害の危険や対応策の知恵を伝える。知らない人がいない状態にしなければならない。」ということを入れておく必要がある。

【大橋委員】

- ・ 主語が混在している。出前講座を勉強会などのわかりやすい文言に変える。

【多々納アドバイザー】

- ・ 「行政は地域での勉強会を支援する。」「行政は地域に出向いて行って、勉強会などの支援を行う。」「行政は勉強会では、視覚的にもわかりやすい工夫を行う。」のように三段階でまとめてはどうか。



【齒黒委員】

- ・ 家において出前講座に出ない人がいるので「学校教育の場でも行う」だけでは不十分。家族全体にその情報が伝わるようにきめ細やかな説明が必要である。

【松尾委員】

- ・ 第1の根っこの3つめの根っこの半鐘・スコップ・太鼓とお地蔵様などの目印。地域の気づきの情報として一つにまとめられないか？

【中村委員】

- ・ 二つは情報が異なるのではないか？一つは、情報伝達である。もう一つは、避難の判断である。
- ・ お地蔵様だけではわからない。お地蔵様が浸かるとか、首まで水位が来るなど水位の基準という意味を入れるべきだ。

【多々納アドバイザー】

- ・ 地域は水防活動において地域の独自の工夫をする。（お地蔵様などのわかりやすい目印を使って水位をはかる）と記述した方がわかりやすい。

【松尾委員】

- ・ 「水害時に地域に留まる」ことができるか？きつい言い方だ。企業戦士であるから、会社へ出向くはずである。

【多々納アドバイザー】

- ・ 「留まるように努める」程度でどうか？
- ・ 「地域の熱いリーダーを養成する」は「地域リーダー養成の手助けを行政がする」。



【杉本委員】

- ・ 「楽しい防災」「防災といわない防災」という表現は、使ったことがない。日常でも使わない文言を入れるべきだろうか？誰もわからないと思う。
- ・ 新語を使っても良いが、解説が必要だ。普通の方には、わからない。

【多々納アドバイザー】

- ・ 「楽しい学習会を実施するなど、多くの人の参加をしやすい工夫をする」はどうか。

【多々納アドバイザー】

- ・ 信頼関係で結ばれたご近所をつくるために「ふだんからともに行動する」というニュアンスをここ（組織をつくる）に入れるのがよい。

【大橋委員】

- ・ 意見が出つくしたということなら、再度整理させていただくことにしたい。

(2) 県民が公助に期待する事柄について

これでの議論も踏まえて、これからの公助の方向性について、事務局から説明が行われました。

【松尾委員】

- ・ 虎姫町から長浜ドームに避難するまでに何本か川がある。避難の際に、その川は氾濫していないのか？本当に避難できるのか？その点を確認していただきたい。



【大橋委員】

- ・ 地元が十分に協議し、避難所を決定することが重要である。昔は大きな遊水地もあったが、開発されて復元できなくなっている。
- ・ 自助・共助も必要であるが、行政の熱い支援が必要である。

【中村委員】

- ・ 滋賀県は天井川が多い。天井川に対する記述が必要。治山面に関する記述が必要。琵琶湖の洪水に対する記述が必要。
- ・ ソフトに関して、啓発活動が取り上げられていない。公助として必要ではないか。

【北井委員】

- ・ 川の中の整備は、どういうふうに行っているのか？全て業者か？

【事務局】

- ・ 河川の改築整備費が、平成9年に125億であったが平成20年には37億になった。
- ・ 維持管理費は約10億である。とても足りない。
- ・ 河川愛護は、年間10万人にご協力いただいて、草刈などをご協力いただいている。



【大橋委員】

- ・ 住民会議では住民でサポートできるものをしていきたいということで取り組んでいるが、小河川のはん濫や、土砂災害やダムという防災に関してトータル的に取り組むという問題は、住民会議で議論してきた中身とずれる。

【事務局】

- ・ 限られた予算をどう有効に使うか。
- ・ 人命を守るために、ハードとソフトを連携させて、対応を進めて行く以外に道はない。それが流域治水であり、皆さんの知恵を拝借して方針を立てていきたい。

【石津委員】

- ・ 河川の中州に土砂が堆積しているのを、その土砂を買ってもらふ発想はどうだろうか。
- ・ 草は刈れば刈るほど元気になる。セイタカアワダチソウも放置すれば退化していく。そういう部分も考えれば、少ない予算を節約できる。

【中村委員】

- ・ 先日の長浜の雨の説明もあったが、大河川は改修し、小河川は後回しということだと、現在の雨の降り方に対応できないのではないか。
- ・ 内水排除について対応していただかなければならない。



【大橋委員】

- ・ 今回は、県に公助について説明をいただいた。
- ・ 次回から、意見を述べていきたい。

3. 一般傍聴者からのご意見

一般傍聴の方から、ご意見をいただきました。ご意見は以下の通りです（敬称略）。

【正村氏（彦根市）】

- ・ 今、地震を含めた総合防災についても考えていかなければならない。地震などでも住民会議のようなものは実施されているのか？地震に対してのプログラムが既にあるのであれば、この住民会議でも参考にすれば良い。
- ・ 住民会議が終われば、全ての情報がなくなるのではないか。たとえば静岡県の富士常葉大学は、環境防災学部がある。県立大学でも作ればよい。そうすれば、いろいろな情報も集約されるのではないか？

【オブザーバー 防災危機管理局】

- ・ 県でも防災危機管理局を知事直轄にし、いろんな災害に対応できる体制を今年から組み上げた。
- ・ 地震については、出前講座などの啓発活動などを進めている。
- ・ 今後は、一歩踏み込み、川も、地震も要援護者へのサポートをどうするか、市や県、国そして住民の方を巻き込んで対応を協議していきたいと考えている。

4. 閉 会

- ・ 事務局より、閉会のあいさつがありました。